

○○○天文夜話○○○

理學士 百濟 教 猷

(一)

屈折望遠鏡一覽表(天界第三號
四一頁參照)で世界第二の位置を占めて居るのは、米國カリフォルニア州立大學附屬リック天文臺の望遠鏡で、レンズの直徑三十六吋焦點距離五十六呎、別に直徑三十三吋のクラウン硝子の修正用レンズがあつて、それを加へ合はせると寫眞用望遠鏡になる。勿論其時には焦點距離は十呎程短くなる。

此望遠鏡に就ては、有名な話がある。或年のことジエームス、リック (James Lick) と云ふ米國の金持が、餘程お金をためたので彼と妻と二人の記念物を造りたいと思つて、まづ太平洋沿岸に二つの巨像を立てやうと考へた。其時に或天文學者が、そんな物では戦争でもあつた時に遠方からよい目標になつて第一に敵彈の御見舞を受けるから、高山の頂に大望遠鏡を立てた方が永久的でよからうと云つた。

かくて西曆一八八八年、其當時世界最大の屈折望遠鏡は、桑港の東南六十哩程はなれた海拔四千二百尺のハミルトン山 (Mt. Hamilton) の頂に立てられたリック氏は其完成に先だつて死去したが、其遺骨は大望遠鏡の臺石の中に納められた。埃及のピラミッドは天文觀測所で且國王の墓であるらしいが、リック天文臺の望遠鏡もリック氏の立派な記念碑となつたわけである。——これだけのことは天文好きの人にはよく知られて居る。

所が話はまだ盡きない。ハミルトン山麓のまはりの地價が望遠鏡が出来てから段々上つて來た。それが動機となつてリックの三十六吋口径より更に大きいエルクス天文臺の四十吋屈折望遠鏡が作られる様になつたとは誠に面白い。

其事情は——私が誇張して申すのではなくてターナー教授の著『近世天文學』の中にちやんと記されてある——或企業好きの紳士が『大望遠鏡を建てるに其邊の地面の價格が上るものだ』と云ふ法則は一般にあてはまるものか試験して見やうと今度はリックの望遠鏡よりもつと大きな者を建てることふれ出して

直徑四十時のガラスを二枚注文した。此試験は驚く程に成功した、唯ふれ出しただけで地價はあがつたので、もう其上豫定の試験を遂行する必要を認めなかつた。兎に角レンズを作るべき直徑四十時のガラスは注文された儘引取手もなく製造者の手元に残つた。此際それを安く買ひ取ればよいわけであつたが一寸買ひ手もなかつた。

其時二人の天文學者が、シカゴの一富豪チャールス、エルクス (Charles T. Yerkes) に此事情を話して、シカゴ市のためにも誠に好機會だとすゝめたので、エルクス氏が主として金を出して呉れる事となり遂に四十時の大望遠鏡は建てられることになつた。シカゴ大學附屬エルクス天文臺はかくして生れたさうである。此天文臺はシカゴの町から西北八十哩程はなれたウイリアムス、ペー (Williams Bay) と云ふ所の、ゼネバと云ふ湖水の岸にある丘上に立つて一八九七年以來活動し始めた。

地面はシカゴ市民ジョンソンの寄附で、直徑四十時のレンズだけの價が十三萬二千圓、望遠鏡器械十一萬圓、望遠鏡室(直徑が九十尺)九萬圓、天文臺の建物二

十七萬圓を費したと云ふことである。

此望遠鏡の長さは六十二尺程あり十一個のスタンハイルの接眼レンズがあつて倍率は二百三十倍から三千七百五十倍まで變へることが出来る。(其際視野は角度で三九六秒から二八秒まで變る)をして十七等星まで見ることが出来る。

大きい望遠鏡に就ては色々面白い話があるものですが、又次の機會で申上げませう。(此項終)

安價な小望遠鏡 (Olway Telescope)

近頃英國倫敦オットエー會社から手輕な望遠鏡を賣り出した。直徑二吋長き十四吋であるから十等星までは見ゆる。頗る輕便で又實用向である。殊に彗星や星雲や新星を見るのに適してゐる京都大學に見本が一つあるが自分は之れで毎夜變光星や海王星や小遊星などを觀測して愛用してゐる。價は二磅半(時價二十二圓)三脚台付ならば價二倍。——最近又赤道儀式の台を付けたものもある其價百圓弱。之れが最も氣がきいてゐる。

又會員の富永鹽田兩氏は先般同會社へ三吋望遠鏡を注文せられた。價百四十圓。

尙他に注文したい人があれば本會で取次ぎする(山本)